

米中「二層構造」の競争環境

米国 (Closed & Highest Performance)

クローズドの米国
米国勢は最高性能を維持



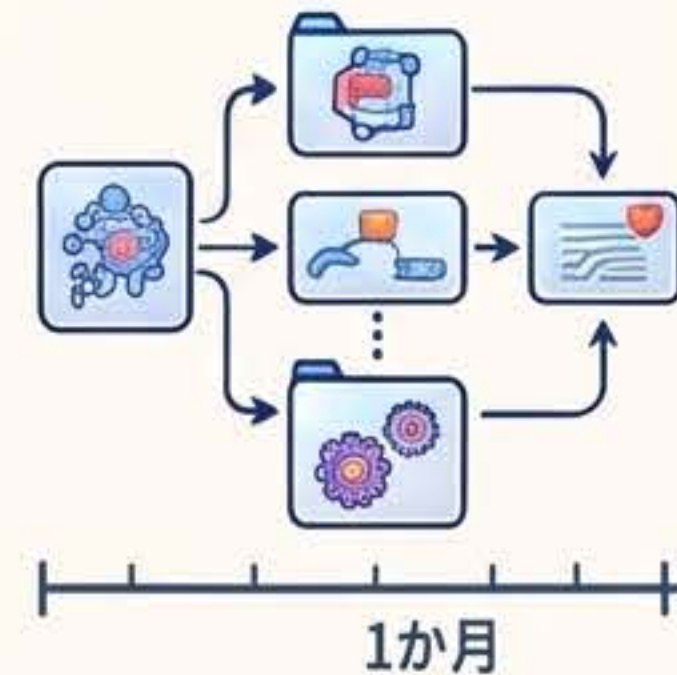
計算資源・電力・資本が真の制的に



2027年に向けて、AI開発の主戦場は「事前学習のスケーリング」から「推論時計算」や「自律エージェント」へと移行。米国が最高性能で優位のリードを保つ一方、中国はコスト効率とオープンモデルで台頭し、米中「二層構造」が定着する見通し。

2027年への技術的ブレイクスルー

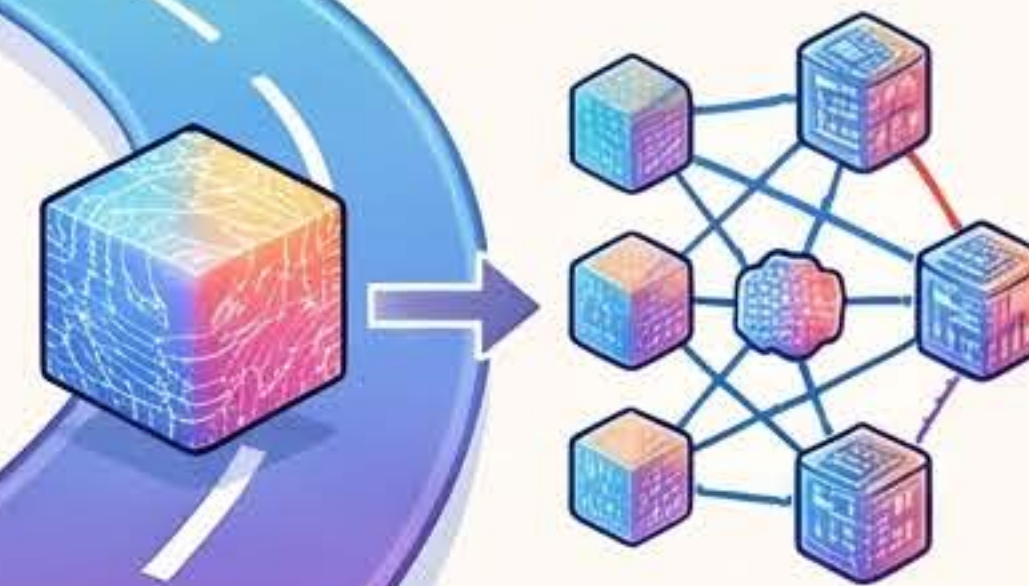
継続学習と長期記憶の実用化
破壊的実部を克服し、モデルがユーザーとのやり取りを継続的に学習する「AIコワーカー」が実現。



エージェントの長期自律化 (1か月規模)
2027年には、競過期から1か月に及ぶ長期タスクを自律的に遂行するエージェントが登場する予測。



事前学習から「推論時計算」へのシフト
単純なスケーリングから、推論プロセスや強化学習 (RL) のスケーリングへと重みが移断する。



中国 (Open & Cost-Efficient)

オープン・コストの中国
中国勢は圧倒的なコスト効率とカスタマイズ性で市場を分かち



縮小する性能ギャップ (平均7か月)



米中間の知能指数の差は3~9か月程度まで縮小し、均衡状態へと向かっている。

2027年末時点の米中格差に関する4つの将来シナリオ



中位 (最有力) : 3~9か月の優位リードを継続



収束 : 実用領域で性能がほぼ均衡



楽観 : 米国のリードが再び拡大



テールリスク : 一部領域で中国が米国を送転